

目標年度について（案）

1. 基本的な考え方

「特定機器に係る性能向上に関する製造事業者等の判断基準の策定・改定に関する基本的考え方について」（第10回総合資源エネルギー調査会省エネルギー基準部会平成19年6月18日改訂）の原則（以下「原則」という。）に基づき、目標年度を設定することとする。

「特定機器に係る性能向上に関する製造事業者等の判断基準の策定・改定に関する基本的考え方について」～抜粋～

目標年度の考え方について

原則 8. 目標年度は、特定機器の製品開発期間、将来技術進展の見通し等を勘案した上で、3～10年を目処に機器ごとに定める。

目標達成に必要な期間は、現行のエネルギー消費効率と目標基準値との関係、従来からのエネルギー消費効率の改善の程度により異なると考えられるが、目標年度の設定に当たっては目標達成に必要な当該特定機器の製品開発期間、設備投資期間、将来の技術進展の見通し等を勘案した上で、適切なリードタイムを設けることが適当であると考えられることから、3～10年を目安として設定することが適当である。

なお、特定機器ごとに現行のエネルギー消費効率と目標基準値との関係、従来からのエネルギー消費効率の改善の程度、製品開発期間、設備投資期間、将来の技術進展の見通し等が異なることから、目標年度は特定機器ごとに異なったものとするが適当である。

2. 設定にあたって考慮すべき事項

(1) モデルチェンジのサイクルとの整合性

燃費性能の大幅な改善は、モデルチェンジの際に行われるのが一般的である。メーカーによれば、自動車のモデルチェンジのサイクルは、メーカー及び車種によって異なるものの、自動車一般としては5年程度とのことであり、小型貨物自動車については、モデルチェンジのサイクルは最小4年から最大25年程度と車種間の差が大きいものの、自動車一般と比べて長い傾向がある。目標年度の設定にあたっては、リードタイムを設定することが適当であると考えられる。

(2) 2015年度燃費基準との関係

製造事業者等は、まずは2015年度燃費基準の着実な達成に向けて、

これまで技術開発等を推進してきている。2015年度燃費基準の達成に向けた技術開発等のスケジュールに配慮し、2015年度以降に行うモデルチェンジのサイクルを考慮して、目標年度を設定することが適当である。

3. 目標年度について

以上を踏まえた結果、2015年度燃費基準との関係に配慮し、燃費改善に向けた開発のための期間を十分に確保する観点から、製造事業者等モデルチェンジを行うためのリードタイムを考慮し、目標年度は、基準年度（2012年度）から10年を経た時期（2022年度）とすることが適当である。